

報 告 番 号	※ 号	第
------------	--------	---

## 主 論 文 の 要 旨

論 文 題 目 ベトナム人日本語学習者による漢字の処理メカニ  
ズムと効果的な学習アプローチの解明—日越両言  
語間の音韻類似性に着目して—

氏 名 HOANG Thi Lan Phuong

## 論 文 内 容 の 要 旨

日本語教育において、特に漢字の学習が非漢字圏の学習者に対しては最大の障壁であり、専門技能試験はもちろんのこと、運転免許証の取得だけでも日本語の漢字の知識が必須である。中国語から借用した漢字語には、日本語とベトナム語の両言語で共有の語彙が多く、音韻的に類似している。そこで、本研究論文では非漢字圏のベトナム人日本語学習者が漢字を効率よく習得できるように、両言語の音韻類似性と使用頻度及び学習者の語彙力の語彙理解への影響を検討し、漢字の処理メカニズムを解明する。さらに、漢字の学習方法及び学習意識と漢字能力との因果関係モデルを構築し、漢字で表記される語彙を効率よく教授・学習するためのカリキュラムと教材開発のための提言をした。

本研究論文では、(1) 日越両言語間の音韻類似性を客観的に測定し、音韻類似性データベースを作成すること、(2) 語彙性判断課題、翻訳課題及び書字行動実験を用いて、ベトナム人日本語学習者による漢字の処理メカニズムを解明すること、(3) 漢字の学習方法及び学習意識と漢字能力との因果関係モデルを構築し、効果的な学習ストラテジーを提言することの3つを目的として行った研究について記述した。

まず**第1章と第2章では**、研究の背景を記述するとともに、先行研究を概観し、それらの内容を踏まえて研究目的と研究方法を設定した。研究の背景は、次のとおりである。①ベトナム語の時代ごとの変化と特徴を詳細に述べ、日本語との関連性として音韻類似性について説明した。②ベトナム人日本語学習者による語彙処理は、言語非選択的に活性化 (language non-selective activation) されるのではないかという仮説を述べた。③日越両言語使用話者による語彙処理のプロセスを検討するために、複数の語彙処理モデルを解説した。④日越両言語の語彙処理に影響する日越両言語間の音韻類似性、両言語の語彙使用頻度と学習者の語彙力の3要因の効果について論じた。先行研究においては、ベトナム人日本語学習者に関する先行研究だけでは

なく、中国語や韓国語を母語とする学習者を対象とした先行研究にも触れ、漢字圏及び準漢字圏と非漢字圏の学習者の相違点を比較した。ベトナム人日本語学習者による漢字の語彙処理や学習に関する先行研究の問題点と課題をまとめ、本研究の目的と研究方法をより明確かつ適切なものとした。

**第3章では**、日越両言語間の音韻類似性を客観的に測定し、音韻類似性データベースを作成した。音韻類似性は、音韻的距離（phonological distance）と音素類似性（phonemic similarity）の2つの指標で測定する方法がある。日越両言語で共通に使用された漢字2字語（訓読みは含まない）1,475語（71.67%）を、音韻的距離については、R言語の *cba* パッケージで、音素類似性については、*phonosim* パッケージで自動的に計算した。日越両言語間の音韻的距離の平均（*M*）は6.05、標準偏差（*SD*）は2.52であり、分散は0から15までの値であった。音韻的距離が小さいほど、音韻類似性が高くなる。一方、音素類似性の指標では、語彙的音素類似性は  $M=0.51$ （ $SD=1.19$ ）であり、平均音素類似性は  $M=0.50$ （ $SD=0.20$ ）であった。いずれの音素類似性も分散は0から1までの値であった。音素類似性が高いほど音韻類似性も高くなる。さらに、本研究の成果としては、日越両言語間の音韻類似性データベースを音韻的距離と音素類似性の2つの指標のデータを蓄積して作成したことにある。そして、このデータベースはインターネット上のウェブページ（<http://kanjigodb.herokuapp.com/>）で検索できるようにした。このウェブページは、ベトナム人日本語学習者の漢字2字語の教授・学習カリキュラム及び教材開発に貢献することが期待される。

**第4章では**、ベトナム人日本語学習者による漢字2字語の語彙処理を検討するために、3つの実験を行った。日越両言語間の音韻類似性、日越両言語の語彙使用頻度と学習者の語彙力の効果に着目し、これらを相互的に検討し、ベトナム人日本語学習者の語彙処理メカニズムを明らかにした。

■**実験1では**、視覚呈示による語彙性判断課題（ターゲット語が単語か非語かを判断する）を用い、38名のベトナム人日本語学習者を被験者として実験を行った。音韻類似性データベースから150語の漢字2字語（単語）をランダムに抽出し、さらに2つの漢字を組み合わせた150語の日本語で無意味な語（非語）を作成した。線形混合効果モデル LME を用い、R言語の *lme4* パッケージの *lmer* 関数を使用し、反応時間を分析した。その結果、漢字2字語の語全体の音韻類似性と日本語及びベトナム語の使用頻度の効果がみられた。学習者の語彙力は主効果がなかったが、音韻類似性との交互作用の効果がみられた。音韻類似性が低い語の処理では、語彙力が高ければ反応時間が速くなった。音韻類似性が中程度の語の処理では、語彙力が高くなると反応時間が少し速くなった。音韻類似性が高い語の処理では、語彙力に関係なく反応時間はほぼ一定であった。

■**実験2では**、視覚呈示による母語のベトナム語への翻訳課題を用い、実験1と

同じ 38 名を研究対象として実験を行った。刺激語は、音韻類似性データベースから 100 語の漢字 2 字語をランダムに抽出した。R 言語の *lme4* パッケージの *glmer* 関数による正答率の分析の結果、漢字 2 字語のうちの第 1 漢字の音韻類似性、日本語とベトナム語の使用頻度及び語彙力の主効果がみられた。両言語の使用頻度と語彙力は促進的な効果で語彙処理に影響したが、第 1 漢字の音韻類似性は抑制的な効果であった。さらに、R 言語の *lme4* パッケージの *lmer* 関数による反応時間の分析の結果、ベトナム語の使用頻度と語全体の音韻類似性は促進的な効果で、第 1 漢字の音韻類似性は抑制的な効果で翻訳潜時に影響した。日本語の使用頻度と語全体の音韻類似性は交互作用があり、日本語で頻繁に使用される語は、その語の音韻類似性による促進的な効果が翻訳潜時に影響したことが分かった。さらに、語彙力と第 1 漢字の音韻類似性の交互作用で、学習者の語彙力が高ければ、第 1 漢字の音韻類似性の抑制的な効果を減弱したことを示した。

■**実験 3**では、ベトナム人日本語学習者 35 名を対象にして、漢字の書字行動の実験を行った。日本語能力試験 (JLPT) の N5 から N3 までで出題された漢字 2 字語 30 語を刺激語とした。R 言語の *lme4* パッケージの *glmer* 関数による正答率の分析の結果、日本語の使用頻度及び日越両言語間の音韻類似性は促進的な効果があったが、第 1 漢字の語彙難易度 (JLPT の N5 から N2 まで) 及び語全体の視覚的な複雑性 (語全体の画数) には抑制的な効果があった。R 言語の *lme4* パッケージの *lmer* 関数で書字行動の各段階の時間を分析した結果は次のとおりであった。聴覚呈示してから書き始めるまでの時間では、語彙力の促進的な効果と第 1 漢字の視覚的な複雑性 (第 1 漢字の画数) 及び第 2 漢字の語彙難易度の抑制的な効果があった。第 1 漢字の書字時間では、第 1 漢字の視覚的な複雑性の抑制的な効果と日越両言語間の音韻類似性の促進的な効果がみられた。第 1 漢字と第 2 漢字の書字間隔の時間では、刺激語の呈示順序の効果で課題遂行する際の被験者の疲れがみられ、また、第 2 漢字の視覚的な複雑性 (第 2 漢字の画数) の抑制的な効果があった。第 2 漢字の書字時間では、第 2 漢字の視覚的な複雑性の抑制的な効果があった。また、第 1 漢字を書き始めてから第 2 漢字を書き終わるまでの時間では、語全体の抑制的な効果のみみられた。

**第 5 章では**、ベトナム人日本語学習者による漢字 2 字語の学習方法と学習意識の調査を行った上で、漢字能力への貢献度を調べ、それらの要因の因果関係モデルを構築した。調査では探索的な因子分析を行った。その結果、漢字の学習方法は、漢字をグループ化して学習する方法 (因子 1)、母語のベトナム語の知識を利用して学習する方法 (因子 2)、漢字の書字を書き練習する方法 (因子 3) の 3 つの因子に分けられた。漢字の学習意識は、漢字学習に対する情意性を持つこと (因子 1)、漢字学習に対する困難性を感じる (因子 2)、漢字の有効性を認めること (因子 3) の 3 つの因子に分けられた。これらの因子を観測変数として、潜在変数の学習方法

と学習意識を測定し、漢字テストで採点した被験者の漢字能力との因果関係を構造方程式モデリングの分析で検討した。その結果、学習意識が学習方法に影響し、さらに学習方法が漢字能力に影響するという逐次的な因果関係が明らかになった。本来測定しにくい漢字の学習方法及び学習意識と漢字能力との因果的な関係について、本研究で構築したモデルではそれらの要因の間に強い因果関係を認めることができた。本研究の探索的因子分析と構造方程式モデリングの分析結果から、ベトナム人日本語学習者のため適切かつ効果的な漢字学習のストラテジーを解明し、漢字能力の向上に資するテキストの作成と教授法の開発に貢献することができると考える。

最後の**第6章では**、結論を述べ、第1章から第5章までで得られた主要な知見をまとめ、本研究論文の成果と今後の課題について総括した。